

## 被爆74周年 原水爆禁止世界大会広島大会フィールドワーク 8月5日「安野発電所への中国人強制連行・ 中国人被爆の歴史を歩く」

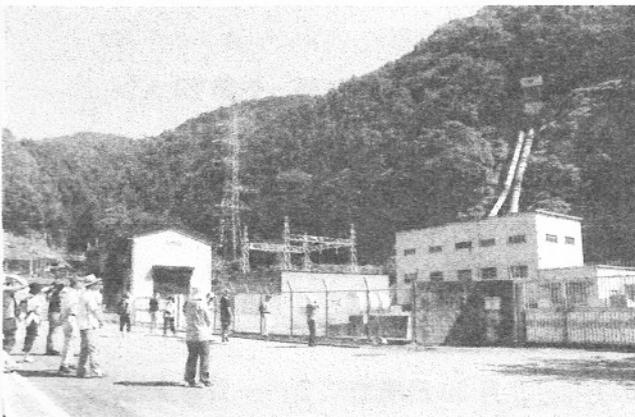
川原 洋子

原水禁広島大会のプログラムとして安野フィールドワークを行なうようになって、早いもので5年目となった。私たちの会は、安野の歴史の継承を主な目的としているので、フィールドワークを通して活動を全国的に知ってもらう貴重な機会である。

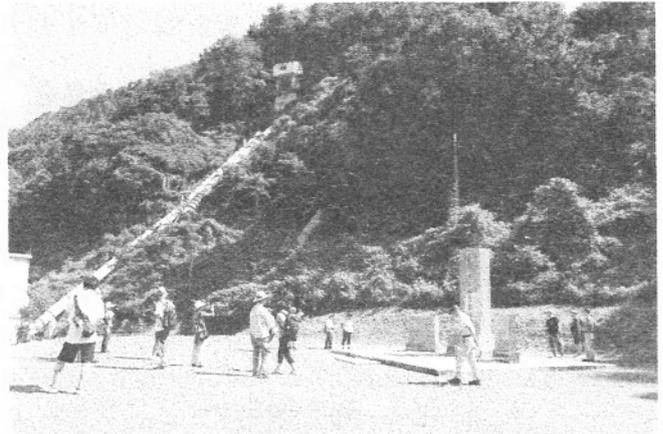
ひとりでも多く参加してほしいと願っているが、20人の募集に対して今年は15人の参加だった。内訳は、神奈川平和運動センター9人、長野県教職員組合1人、福岡県教職員組合1人、東京緑フォーラム3人、スクラムユニオンひろしま1人である。そのうち3人が2回目の参加ということがわかり、うれしかった。

朝8時に平和公園を中型バスで出発して、現地でも6時間半かけてフィールドワークと学習を行ない、夕方4時20分に平和公園に帰着いた。

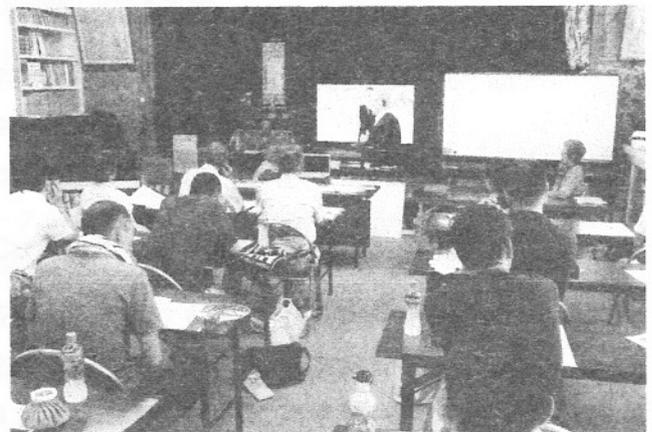
地元・安芸太田町の斉藤さんと小田さんが今年も参加され、安野発電所で合流した。お二人は去年に続いて2回目の参加である。



9時すぎに安野発電所に到着。暑いので、バスの中で説明を聞いてもらってから外へ出る。天気予報では気温は37度になる見込み。広島県内ではいちばん高い気温を記録する地点なので、何度まで上がるか心配。



和解までの経緯や記念碑についての説明を日陰で聞いてもらってから、記念碑を見学してもらった。それから50メートルほど山道を登って貯水槽まで行った。当時、中国人がトンネル掘りの仕事に往復した道だ。



バスで善福寺へ。かつて幼稚園の教室だった部屋は冷房が効いていてほっと一息つく。去年まで皆さんに証言をされた栗栖薫さんは今年90歳となり、暑いさなかでもあり証言を休まれた。代わりにDVDで栗栖証言を聴いていただいた。3年前に参加して栗栖さんの証言を聴いた人は、栗栖さんの健康状態を心配しておられた。お弁当を食べて昼休憩をとった後、藤井住職が2017年に天津で行なわれた追悼活動などについて話をされた。

## ＜参加者の感想——アンケートより＞

### 《神奈川県 50代》

暑い中お世話になりました。耳を塞ぎたくないような話が多くありました。ひどいことをした日本人が悲しい。そんな中、優しい人もいたこと、西松の株主になったこともすごく良いと思った。長く長く継承してください。

### 《神奈川県 40代》

中国人強制連行の実態を詳しく知ることができて良かったです。歴史事実を知ることの重要性を改めて認識できました。

### 《東京都 20代》

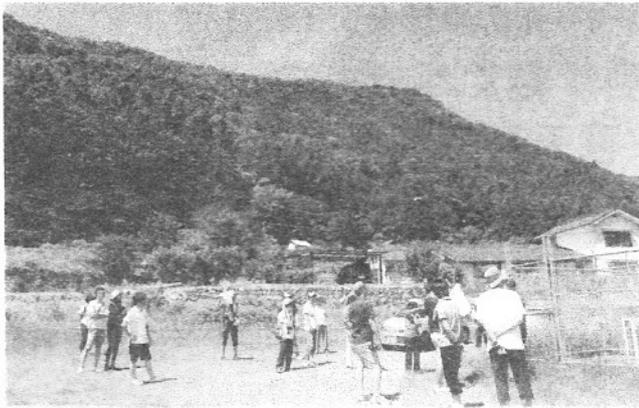
去年初めて長崎に行って、今年は初めて広島に行って原爆投下されたつながりがあって良かったです。安野発電所では、中国人が強制連行されたことについて知っていなくて、自分の目で見て感じる事ができたのが良かったです。今、韓国、中国、朝鮮の問題もありますが、だめなことはだめだと言っていかなければいけないと思いました。収容所なども見て、生活や食事、病気などがあって、どういう思いであったのか？と思い、悲惨なことだと思いました。

### 《東京都 30代》

中国人の働かされていた証言を聞くことができた。藤井住職さんのお父さん・おじいさんの戦争体験を聞いたことがよかった。

### 《福岡県 50代》

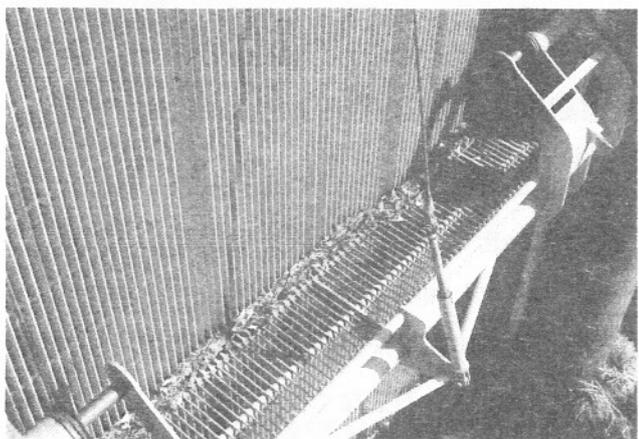
福岡でも筑豊や三池の強制労働は知られているが、改めて全国規模で行われたことなんだなあと再認識させられた。今徴用工問題が注目されているが、裁判になったとはいえ西松の事例は一つの解決策を示唆しているようで、とても参考になった。そのポイントとして、株主になって解決を訴えられてきたことや、最高裁の付言が役立ったことが分かった。このようなことを福岡でも紹介していきたいと思った。フィールドワークと話と資料がバランスよくできていたと思います。



津浪収容所跡をバスの中から見てから、地下を導水トンネルが通っている地点に行った。フェンスの真下が導水トンネルである。津浪は発電所のある坪野より標高が高いのだ。



バスで香草収容所跡へ。大元神社のすぐ下の、現在は杉林となっている斜面に建てられたバラックに、中国人約100人が収容されていた。栗栖さん作成の図面と見比べながら、収容所の位置や建物の構造を確認した。



最後は土居取水口。導水トンネルの出発地点である。時間があつたので、特別に集塵機を動かしてもらった。ゴミがトンネルに入らないように取り除く装置だ。集塵機が音をたてて動き出すと、写真を撮ったり動画を撮ったりと、皆さん、この日いちばんの集中力をみせてくれた。